

かいぎめいしょう 会議名称	へいせい ねんど だい かいすぎなみくちいきじりつしえんきょうぎかい 平成28年度 第2回杉並区地域自立支援協議会
にち じ 日 時	へいせい ねん がつ にち か 平成28年9月6日(火) 10:00~12:00
ば しょ 場 所	にしとう かい えーびー かいぎしつ 西棟8階9AB 会議室
<p>しゅつせきいじん <出席委員> たかやま ゆみ こい いん (かいちょう)、かみさく あやこい いん (ふくかいちょう)、かねこ めぐみ いん、きくち えいじ いん、さいみょう ひさえい いん、 ながの たつや いん、まさき こけん いん、おおだ こうへい いん、たなか なおき いん、いがしら えみ いん、つぐひとし いん、すずき まさみち いん、かとう あやえい いん、はるやま ようこい いん、しもだ かずのり いん、しゅり みか さい いん、ふじた ようじ いん、たなか すみこい いん、 なが たなおこい いん 永田直子委員、</p> <p>けつせきいじん <欠席委員> おがさわら いん 小笠原みのり委員</p> <p>かんじ <幹事> ほけん ふくしゅ しょうがいしゃしきくか で ほゆうじ しょうがいしゃせいかつしえん かちょう りゅうま ゆみ 保健福祉部障害者施策課：出保裕次、障害者生活支援課長：笠真由美 すぎなみ ふくしゅ じむしょ たかいど じむしょ たんとう かちょう もろずみ じんこ 杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：諸角純子</p> <p>じむきょく <事務局> しょうがいしゃしきくか いけだけいこ めぐる きみこ ささき なつえ きろく 障害者施策課：池田恵子、目黒紀美子、佐々木夏枝(記録) しょうがいしゃせいかつしえん か いわさき りゅういち 障害者生活支援課：岩崎隆一</p>	
<p>しだい 【次第】</p> <p>1 かい 開会</p> <p>2 かいちょう あいさつ 会長挨拶</p> <p>3 ほうこく 報告</p> <p>(1) かんじかい 幹事会より</p> <p>(2) ちいき いこうそくしんぶかい 地域移行促進部会より</p> <p>(3) そうだん しえんぶかい 相談支援部会より</p> <p>(4) しんぽじウム じつこういじん シンポジウム実行委員より</p> <p>(5) さべつかいしょうしえんちいきかいぎ しんちよくじょうきょう 差別解消支援地域会議の進捗状況について</p> <p>4 ぎだい 議題</p> <p>(1) すぎなみくししょうがいしゃちいきそうだんしえん げんじょうほうこくおよ いけんこうかん 杉並区障害者地域相談支援センター(すまいる)の現状報告及び意見交換</p> <p>(2) あんしん じぎょうとう 安心サポート事業等について</p> <p>5 へいかい 閉会</p>	
<p>はいふしりょう 【配布資料】</p> <p>しりょう ○資料1 へいせい ねんどだい かいすぎなみくちいきじりつしえんきょうぎかい だ がいけん くだいせいり 平成28年度第1回杉並区地域自立支援協議会 出された意見と課題整理</p> <p>しりょう ○資料2 そうだん しえんぶかい かつどうほうこく 相談支援部会の活動報告</p>	

- 資料3 平成28年度杉並区地域自立支援協議会シンポジウム (案) 第1回実行委員会報告
- 資料4 差別解消支援地域会議委員 (案) 当日席上配布
- 資料5 杉並社協 あんしんサポート 係事業概要と課題 当日席上配布

【内容】

1. 開会 (司会目黒)

省略

2. 会長挨拶

前回の内容を踏まえ、すまいるの課題を検討、あんしんサポートについても活発な意見交換ができるようご協力願いたい。

3. 報告及び議題

(1) 幹事会より

※資料1を基に事務局から説明。

相談支援部会のワーキンググループは5⇒4グループになった。当事者の身近な議論となるよう検討を進めていきたい。部会のあり方についても本会から意見をいただき、整理していきたい。地域移行促進部会は医療について検討を進めていく。平成30年地域医療計画の改定がある。重心が医療機関にかかるのにハードルが高いので区内でも医療が受けられるしくみが必要である。差別解消支援協議会は協議会とは別の形で設置、合理的配慮は職員も勉強してほしい、研修をしたりよい事例があれば発表していきたい。すまいる、あんしんサポートの現状については本会で共有し、皆様からの意見をいただきたい。

(2) 地域移行促進部会について

地域移行促進部会は7月28日に開催。相模原の事件を受けて、施設はセキュリティの強化をしている、不安定になったケースがある、福祉における人材不足、介護職が不向きな人への処遇の難しさなどの意見が出された。また杉並区における地域移行、地域定着の現状についての報告を受けた。医療への信頼を高めるためにしくみを知る、チーム支援のしくみづくり、単身生活を維持するための課題等5つのテーマを議論していく。障害によりテーマが違うので各障害から事例をあげていく。精神はチーム支援の枠ができてるとよい。知的はグループホームでの高齢化、身障は重症化を防ぐ、介護をどうしていくか等がテーマ。地域移行の視点を忘れずに次回は9月27日開催予定。

(3) 相談支援部会について

4つのグループで議論を展開中。Bグループ：重心について、実態調査、切れ目のないライフステージに合わせたサービス整理、基礎調査に実態把握のための質問を組み合わせないか、就学児の課題等について話をしている。Cグループ：高齢期の課題、本人の生活はどうあるべきか、サービスありきではない中で介護保険にとらわれずインフォーマルなサービスの活用についても議論していく。Dグループ：就労、ワークサポートの雇用支援ネットワーク会議に参加し、意見交換している、就労移行支援事業所の見学も実施。定着支援の薄さを共有、現状の把握と課題整理に努めている。Eグ

ループ：児童の課題、施設見学を実施、小学校の福祉との連携はまだこれから。放課後等デイサービスの支援実態の把握、事例検討も実施。グループリーダーも交え、幹事会を開催し今期のまとめや来年度の活動について検討していく。年度末にまとめの相談支援部会を開催し、具体的な報告をしていきたい。

(4) シンポジウム実行委員会について事務局より説明(資料3参照)

実行委員：事務局より声かけ、打ち合わせを1回開催、時期は1月、午前(午後だと学齢期の親が参加しにくい)、差別解消法に関する講演(60分、高山先生に依頼)、自立支援協議会についての報告、パネルディスカッション。コーディネーター：希望者がいればぜひ。パネリストは調整中。

- ・皆が満足する時間は難しいと思うが午前にはよい。
- ・毎年午前開催を提案していた、迎えと重ならなくてよい。
- ・コーディネーター、講演講師についても意見があればぜひ事務局まで。

(5) 差別解消支援地域会議について資料4を基に事務局が説明

障害者福祉推進連絡協議会の委員と調整中。当時は6~7名⇒9名(うち6名：団体連合会からの推薦で、残り3名は自立支援協議会から)、その他学識経験者は高山先生、教育関係・医師は自立支援協議会から、就労は事業団に推薦依頼、公共交通はバス会社、商店街連合会等から委員を出してもらおう。今後の進め方については、幹事会・事務局と話し合いを進めている。

4. ①すまいる現状報告：資料参照

すまいる高井戸：すまいるの共通事業：相談(面談、電話中心、アウトリーチも実施)、自立支援、ネットワーク、代筆代読、虐待見守り、避難プラン同行等

就労に関する相談、生活支援が必要な方への関わり、ワークサポートからの紹介については連携しながら展開している。スペースがせまいので館内の部屋を借りながら対応。ピアが現在3名。今後に向けて精神のピアを2名、作業所からスカウト、養成を始めている。当事者活動(つどい、ナチュラルカフェ、わかかの会)、専門相談月1、差別解消法普及に向け、自治会を回りたい。すまいる通信150部を区内関連施設、区外の精神病院、支援センターに配布している。

すまいる荻窪：4年目に入るが地域の課題はまだ把握できていない、サービスにつなげる、サービス終了者の支援。サービスにつながっているがうまくいかない人への対応。オープンスペースでは不安の解消のために話を聞くことも多い。グループホームが点在、グループホーム卒業生へのフォローもしている。個別だけでは難しい人にはプログラムに参加、サービスにつながるまでの間、モチベーションが下がらないようにプログラムを活用してもらうこともある。ボランティアの協力を得ているが、ボラの高齢化、後任者がいないという問題もあり。

地域移行プレ：退院支援。要はピアだが担い手が少なく数名で対応、負担が大きい。ピアの要請をどうしていくかが課題。

すまいる高円寺：各すまいる通信はイメージカラーを使用。高円寺は黄色。地区別の課題：単身、生保が多い。福祉事務所の上にあるため、生活保護担当から紹介されることが多い。相談を受けたとき、何がしたいのか、大切にしているもの等こまかに情報をとっている。自立を支援する事業：居場所の

意味合いが強い。防災週間：防災イベント、家庭での準備、発災時はどこが避難所が知ってもらおう。
防災食：お金をかけずに準備できるもの。専門相談（成人期発達障害、知的なし）は相談の入り口、
ホームページにも掲載、ハローワークやトスカからの紹介も多い。今後の方策はみつきりにくい
定期的に面接、課題を整理、どう生活していくか一緒に考えている。

・荻窪のワーカメイトクラブにはワークサポートからも参加、すまいるの利用対象者は？
⇒障害がある方なら手帳の有無は必要なし。プログラムについてはどれがふさわしいか相談しながらつないでほしい。

・知的の人が参加しやすいものはあるのか？精神が多いのではないかな？
⇒高井戸は、精神、ついで知的の利用者が多い。一緒に楽しめるものもある、別の方がいいものもある。知的に特化したもの：つどい会。パソコンサークルは発達障害が多い、表現講座、音楽クラブ、ヘルスサポート、卓球大会は誰でも楽しめる。28年1月～オープンルーム実施、ゲーム、かき氷等来所者に決めてもらっている。

⇒荻窪：オブリからのプログラムが多い。精神向けのものが多い、
⇒高円寺：どのプログラムも障害を問わず利用可、職員のサポートあり。週末や平日、移動支援の休憩に使っている人もいる。

・計画相談はサービス利用者中心になってしまうが、すまいるは？
⇒サービスにつながる前、つながった後と継続した関わりあり。
⇒通所：最新の情報を提供したい。事業所を回って情報収集している。サービス利用後も特定相談支援事業所と連携しながら面接をしている人が多い。
⇒特定相談支援事業所、福祉事務所、保健センターからも事業所を探してほしいと頼まれることが多い。ケースと一緒に探すことあり。

②安心サポート事業について資料5、事例参照

自己選択できるよう、側面的支援。公共料金がとまってしまっているという相談が多い。同行が基本。代理権を設定して引き出すことが多い。契約時、支援計画をたて、審査会にかけている。ペアで支援。専門員はコーディネーター。支援員は個別支援。

・家族に高齢者、障害者がいる場合、それぞれと契約するのか
⇒審査会にかけ、場合によっては後見制度を利用することもある。

・あんしんみらいの預かり金、どこでも大丈夫か？
⇒安心サポートは同行が基本。ゆうちょ銀行を利用することが多い。

・障害がある方への支援は？
⇒すまいる、ワークサポートと一緒に動くこともある。すまいるで月1～2週に1回出金の確認をし

ているケースもある。細かいところをみてもらい助かった。

課題について、すべてを金銭管理でまかなえない。

5. 区からの連絡事項

差別解消法の委員、個別にあたっていく。

今後の予定、1月シンポジウム、本会第3回は12月、第4回は29年3月。

障害者連合会、区長との懇談会について：前回のメインテーマは住まい、今回は医療の問題、医師会

との連携を強化していきたい。

次回幹事会で話し合っしてほしいことがあれば事務局へ。

6. 閉会